

昭和61年10月15日発行

その1

# 泉南走ろう会

連絡先  
社  
07248・3-4653

井上 隆

L

祝「泉南走ろう会機関紙」61号発行

会長 遠達三

この高く馬肥ゆる候と言つても冷感が日増しに加わり乍暮れも早い時期です。このとき朝早く又夜走つての人も見かけます。走ることは健康にすこぶる良いと泉南走ろう会が結成されました。今では例会日の参加には、いきさか盛り上りが欠けてあります。しかし機関紙61号発行は人の世に言う61は還暦です。なにかと浮き沈み波乱に富んで61号です。考えて見れば走つて走つて61年になります。普通機関紙統とえば何を例えば釣クラブ、登山クラブ等は機関紙を発行するがせいぜい二三号ぐらまでです。後の続かずなのに我が泉南走ろう会は61号を発行。先ずはお目出度うと言いたい。これは何故か、だいたい機関紙の発行が出来なくなるのは原稿が集まらない、又原稿があっても書き込みと封筒に入れて会員に配布してくれう人がないと言つことは大きな原因です。それと毎月くの行事がない。これでは原稿の書きようがありません。幸い泉南走ろう会の

事務局長又、原稿を浮書して下さる事務局長の奥さんが几帳面であるが故に毎回原稿に苦労します。遠会長さん。有難うござります。余事務局長の奥さんより今日まで焼きました。感謝いたします。又折にふれ原稿を寄せて下さった方なんでこんなものに参加したのだと思いながら走つたとフルマラソンの感想等お寄せ下さい。原稿すべて実感があります。この様にフルマラソン駆伝月例会等、毎月何か行事があり、今日にいたりました。さて、この機関紙何時まで続くか大変興味があります。この稿の最初に述べましたように、この地域で泉南市で公員以外の方誰かが走つてあります。走ることはすこぶる健康に良いと言つ事よう。会員の皆様、もともと機関紙の発行が続くよう走りましょう。

高校に入るとそのよほど劣等感も少しほは薄れたり気がする。中学校の時に陸上部の友達を見ていて、そのオーラをイメージして走ると少し遠くなったり。それで高校の体育の短距離走のテストはどうもよい方だったことを記憶している。それ以来、二六歳になつまでランニングとは無縁というよりも、たゞ二四本は吸うし、深酒はするしで、夏の暑い日などは、歩いても目まがするほどだったのだから。しかし、人間少レは自然なり、汗をかくことにあこがれるものであり、勤め先の者が山へ行くというので、同行することになった。どう山は北アルプスの白馬岳、という山で、3,000m以上あるのだから、少しは体力をつけなければと長居公園を歩く。スピードで三周、日曜日二日と三日走つた。しかし、どうもランニングで体力がつくはずもなく、山行きは足をつるし、怪我したるものであった。それ

肌寒む  
目にはあざやか  
秋が来た  
秋葉

高倉林道にて

青少年の森にて  
(快走人類)



ランニングとの大会い

L

一ドもそれぞれに合ったものでよい。世の中皆バラバラな方がおもしろいと思う。

がう、山行きもランニングも二年間しながにいる。あるが、二千八百の九月の末に何を思ひたのが走り出したのである。最初は場に住んでいたうえ、大阪刑務所の回り一周一六 Kmを三日走て一日休むというのであつた。しかし二月続けた土月の初めに三十九度の熱を出したので、これはいけないと走るのを隔日した。それでも徐々に体力はつくもので、日曜日などは四、五kmを走れるようになつた。それから、涼南に結婚して移り住み、たのであるが、走る距離は、あまり変らず丘陵地の周道路を三、五km隔日に走る程度だ。

そして、新家アランソンに出て、走り会を以前がつ知っていたのであるが、そのアランソンに出て走り会を身近に感じて入ることになった。走り会に入つてかうのことは、見てのとおりであるので省略する。

以上が、小生のランニングとの出会いから現在までをアランソンに書いた。とりとめのない話しなんだが、まあ走りの楽しきである。今は、まだ隔日ぐらではあるが、走てる。小生あまり根性がなければ、無理をする気もしない。自分は自分なりの力で走つてればよいと思う。あまり皆が急いで競争ばかりしだすと、皆同じ方向に向つてしまつて、世界危険になつてしまつは気がする。一人一人めぐらの方向を向いて走つればよい。距離もそ。

一 お知らせ

一、十月十九日(日)

例会員貢の皆様何と用事がありすので休会とします。

二、十一月二日(日)

例会日、三日開催の尼崎シティ国際ハーフマラソン参加に備えて体調整のため(?)休会といたします。

